

支所だより

東予・丹原・小松の各総合支所管内での、身近な出来事や話題などを紹介するコーナーです。

東予総合支所

〒799-1394 周布349番地1 TEL0898-64-2700 FAX0898-65-4363

マコモタケつくりを食育に活かす ～マコモタケをつくって食べよう会～

三芳地区では「マコモタケをつくって食べよう会（会長：矢野輝男さん）」を中心に、地元の小中学校の児童生徒や保護者も参加して、マコモタケづくりが行われています。

マコモタケは、東南アジアに分布するイネ科の多年草植物です。茎のふくらんだ部分は、タケノコのような食感とほのかな甘みが特徴で、炒め物や天ぷらにして食べます。

また、中華料理の高級食材としても幅広く用いられるほか、低カロリーで食物繊維を多く含むためダイエット食品としても適しており、ビタミンやミネラルも豊富な植物です。



足元に気をつけながら植え付け



植え付けから半年後の収穫は感慨もひとしおです

毎年5月に10アールほどの水田に植え付けを行い、夏場の除草作業などを経て、秋祭り明けに2メートルほどにも成長した株を鎌で刈り取ります。無農薬で育てられたマコモタケは、そのまま生で食べたり、地元の小中学校での給食にも取り入れられています。

マコモタケの栽培を通して、食育の推進を図るこの会の取り組みは、今年で4年目になります。地域一体となって愛情一杯に育てたマコモタケをみんなで食べることで、勤労の大切さや収穫の喜び、そして思いやりの心をもった健全な人間形成を目的とする活動からは、三世代交流の場づくりや地域のつながりの場づくりに向けた熱い思いも伝わってきます。

丹原総合支所

〒791-0592 丹原町池田1733番地1 TEL0898-68-7300 FAX0898-68-4769

世代を超えた存在「志川橋」 ～写真が証言する橋梁技術～

「広報さいじょう」9月号のこのページで紹介した、志川橋の建設当時の貴重な写真がこのほど発見されました。

岐阜県にお住まいの杉山順野さんという方から、志川橋についてお問い合わせをいただいたことがそのきっかけでした。昭和6年の志川橋架け替え工事に関わられた国枝源一さん（源一さんからみて杉山さんは長男の娘）が遺されたアルバムに、当時の志川橋の写真があったのです。



左の写真は、明治期以降に建設されたと思

われる上路トラス構造の木造の旧志川橋の解体時のものです。川幅や谷の深さから、この木造橋建設に従事した匠の技術の高さをうかがい知ることができます。

一方、右の写真は、アーチ橋である現志川橋の建設時のものです。荷重を支えるための架台を、多くの木材で組み上げている様子が分かります。

今回は、杉山さんを通じて国枝源一さんの娘の国枝恭子さんからご提供いただいた写真をもとに、80年前の橋梁建設技術についてご紹介しました。

世代を超えて遺された写真。そして世代を超えて存在する志川橋。いずれも大切なかけがえのないものです。



小松総合支所

〒799-1198 小松町新屋敷甲496番地 TEL0898-72-2111 FAX0898-72-4048

心を一つに！ ～小松小学校コーラス部～

NHK全国学校音楽コンクール愛媛県大会が、去る8月4日に松山市市民会館で開催され、小松小学校コーラス部が見事金賞に輝きました。

四国大会を控え、練習を続けるコーラス部を小松小学校に訪ねると、透き通るような歌声が耳に飛び込んできました。山下真理先生指導の下、4年生12人・5年生13人・6年生15人の総勢40人の皆さんは、夏休みのほとんどを返上し、扇風機で涼を取りながら猛練習に励んでいました。

山下先生は、「合唱指導を始めて5年になりますが、今年のメンバーには4年生が多く、発声技術の指導に苦労しました。全員が心を一つにして音を合わせ、一言一句に気持ちを込めて、聞く人に感動を与えられる合唱をしてもら

いたいと思っています」と、熱心に取り組まれていました。また、練習後には全員でドッジボールを行い、コミュニケーションを図りチームワークの絆を深めてもいました。

そうした努力が再び実り、四国大会でも金賞を獲得し、東京・NHKホールでの全国大会に初出場を果たした小松小コーラス部。大きな会場に慣れるための、市総合文化会館大ホールでの練習も後押しし、大会ではみんなの心が一つになった歌声を披露。会場の観客だけではなくテレビを通じて全国に爽やかな感動を届けることができました。

